

2025年度事業報告について

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

1. 大同生命地域研究賞

(定款第4条第1号に該当)

大同生命地域研究賞は、地球的規模における地域の総合的研究の一層の発展を支援することを目的として、1986年に創設された。

本財団の設立目的である国際相互理解の向上にあたり、地域研究が指向する目的と基本において一致することから、この賞を設け、学会関係者の指導、協力を得て主宰してきた。

(1) 第40回 大同生命地域研究賞の贈呈

推薦書受付、選考委員会ならびに贈呈式の開催状況は以下のとおり。

1) 推薦書受付

- ①推薦委員数：83名(2025年3月末)
- ②推薦期間：2月26日～4月30日
- ③受付件数：30件(研究賞4件、奨励賞25件、特別賞1件)

2) 選考委員会

- ①開催日：2025年5月30日(金)
- ②開催場所：クラブ関西(大阪市北区)
- ③出席委員：井上 真 氏(早稲田大学人間科学学術院教授、
東京大学名誉教授)
臼杵 陽 氏(日本女子大学名誉教授)、
[選考委員会委員長]
小長谷 有紀 氏(国立民族学博物館名誉教授)
關 雄二 氏(国立民族学博物館館長)
松田 素二 氏(総合地球環境学研究所特任教授、
京都大学名誉教授)

④受 賞 者：以下のとおり。

○大同生命地域研究賞（副賞 ３００万円）

- ・「インドネシアならびに東南アジアに関する社会経済史研究」に対して
東京大学 名誉教授 加納 啓良 氏

○大同生命地域研究奨励賞（副賞 １００万円）

- ・「現代中国ならびに新興国のデジタル社会化とイノベーションを切り口とした新しい地域研究の創成」に対して
東京大学社会科学研究所 准教授 伊藤 亜聖氏
- ・「内戦下インドネシア・アチェ州における地震津波災害後の社会変化と復興に関する学際的地域研究」に対して
京都大学東南アジア地域研究研究所 准教授 西 芳実 氏
- ・「コンゴ盆地熱帯雨林における人間と自然の関係に関する基礎的・実践的な地域研究」に対して
京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 安岡 宏和 氏

○大同生命地域研究特別賞（副賞 １００万円）

- ・「地域研究を活かした国際的な人道支援の活動」に対して
立教大学大学院社会デザイン研究科・社会学部 教授、特定非営利活動法人難民を助ける会 会長 長 有紀枝 氏

３）贈呈式

２０２５年７月２９日（火）にクラブ関西（大阪）で開催。

（２）大同生命地域研究賞講演会のオンデマンド配信

上記④の受賞者５名の研究成果の披露および賞の知名度の一層の向上等を兼ねた講演を、２０２６年３月１６日（月）、当財団公式 YouTube チャンネルでオンデマンド配信を開始（財団の知財としてライブラリー化）

2. 翻訳出版

(定款第4条第2号に該当)

(1) アジア諸国の現代文芸作品の日本語翻訳出版

<「アジアの現代文芸」シリーズ>

- ・以下の作品を翻訳・出版した(2,500部)。
- ・書籍は、全国の大学・公立図書館等に寄贈し、電子書籍は当財団のホームページ上等で無料公開した。
- ・これにより対象国は14ヵ国、出版作品数は83作品となった。

No.83 マレーシア⑤ 『ある語り部の最後の日々』

- ・マレーシア作品として、5作品目
- ・この作品は、マレー半島の農村を舞台に、マレー農村の自然の美しさと伝統的な慣習とイスラム信仰に根ざした日常生活を巧みに描写しながら、年老いた語り部の辛苦と試練に満ちた人生を描いた純文学作品。
- ・著者 アンワル・リドワン
- ・翻訳者 小野沢 純(一般財団法人国際貿易投資研究所客員研究員)

【電子書籍での無料公開】

- ・上記作品は電子書籍でも公開。
- ・電子書籍の出版作品数は、計60作品。

(2) アジア各国語への翻訳出版

<「ジャパニーズ・ミラーズ」シリーズ>

- ・以下の作品を翻訳・出版した(2,000部)。
- ・書籍は、現地の学校や図書館等に寄贈。
- ・これにより対象国は9ヵ国、出版作品数は52作品となった。

No.52 タイ語⑭ 『津田梅子』

- ・タイ作品として、14作品目
- ・日本最初の女子留学生としてアメリカに11年滞在し、帰国後は教育に身をささげ、津田塾大学を創設した津田梅子。
- ・日本の女子教育の先駆者となる梅子は、2024年7月に発行新五千円札の肖像にもなった。
- ・翻訳者 ポーン・アノン・ニヨムカ(元泰日工業大学副学長)

3. 教育支援

(定款第4条第4号に該当)

勉学環境に恵まれない東南アジアの生徒のために、次の支援を実施した。

① ラ オ ス

- ・ 3校（シビレイ小学校、ドンカンクー小学校、ウンパウン小学校）に
図書を寄贈。

＊ 3校は当財団が建設した学校

② カンボジア

- ・ 3校（オーニョ小学校、プアーク中学校、トノルバンベーク小学校）に
図書を寄贈。

＊ 3校は当財団が建設した学校

③ ミャンマー

- ・ 3寺子屋学校（ピンレーブ、ミガダーウォン、ナツマウツ）に学用品
（ノート、鉛筆、ボールペン）を寄贈。

震災復興支援として、椅子・机の寄贈、壁面の修繕等を支援

＊ 3寺子屋学校は当財団が建設した学校

- ・ 特別枠として、ミャンマーの小・中・高併設校へトイレ設置を支援

以 上

「附属明細書」について

2025年度の事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

以 上